

環境映像祭

2008年4月13日(日)～20日(日) 各日19:00～22:00【16日は休みです】
 会場：ひつじ屋 (JR 大糸線穂高駅前すぐ) 参加費：1日800円(飲み物・会場代)
 総合司会：北沢和也 & 可奈子 運営協力：穂高パソコンスクール・舎廬夢ヒュッテ

4月13日(日)『木を植えた男』 ゲスト：安倍泰夫(NPO カトマンドゥー理事・安曇野市穂高在住)



小児科医でもある安倍泰夫さんは、登山が大好きでネパールと中国国境にあるヒマラヤにもよく登りました。1974年、ネパールのある村で偶然出会った少女ドルガを、子どものなかった安倍さんは1年かけて自分の養子にし日本につれてきました。また、ネパールの小児病院で医療にたずさわったことのある安倍さんは、目の前で下痢で命を落としていく多くの子どもたちを見てきました。彼らの命を救うには、森林をよみがえらせ、きれいな湧き水を取り戻す以外にないと考え、首都カトマンドゥの北70kmほどにあるトリスリ地区(ドルガの生まれ故郷)で植林活動を始めたのです。当日牛乳パックをお持ちください。活動の大きな力になります。

★安倍泰夫ネパール写真展開催 4月11日(金)～24日(木) ひつじ屋ギャラリー

4月14日(月)『素晴らしき地球の旅 自由の種をまく～子安美知子・フミ、シュタイナーとの25年』 ゲスト：神澤真江(森の子保育士)



「テストも通信簿もなく、教科書を使わない。ひとりの担任が8年続く」という12年制の小中高一貫教育の学校がドイツにあります。子どもの内的生命と自発性を尊重したその学校を、シュツットガルトのバルドルフ煙草(たばこ)工場の付属学校として創立したのがドイツの哲学者シュタイナー(Rudolf Steiner 1861-1925)です。ナチス時代には閉鎖したこともありましたが、戦後、学校数が増加し、1968年には西ドイツで29校、81年には70校になりました。別の資料によると、全世界には約100校を超える自由バルドルフ学校(シュタイナー学校の別称)があります。テスト、通信簿、競争のない学校は、日本では考えられませんが、これはシュタイナーの基本著作「一般人間学」の精神によるもので、その考え方は、子どもの存在を「物質体・生命体・感情体・自我」の4つの側面とらえ、バランスよく育成しようとするものです。

4月15日(火)『ラダック 懐かしい未来(Ancient Futures)～発展とは何か?』 ゲスト：野口法蔵(臨済宗住職/坐禅断食会指導者)



スウェーデン出身の人類学者による本から生まれたこのビデオに世界中の人々が共鳴しました。米国では小中学校の授業にも取り上げられています。その日本語版を上映します。グローバル化とは何か? 題材はヒマラヤの山村ですが、現代の日本をもう一度見直したいと感じさせる映像です。小チベットと呼ばれるラダックは、チベット仏教が篤く信仰され、質素倹約と助け合いの伝統により何世紀にもわたって環境バランスや社会的調和の中で暮らしてきました。そこに、やがて「開発」「発展」がやってきたのです。ラダックの文化と環境が崩れていくさまは、「進歩」とは何か、世界の「貧困国」における「開発」、「先進国」における「発展」のあり方を考えさせられます。ラダックの事例は、環境や社会、あるいは私たちの精神の諸問題の根本的な原因について示唆してくれます。そして、私たちの未来についても貴重なガイドラインを与えてくれるでしょう。

4月17日(木)『パーマカルチャー 地球とつながる楽園の暮らし～ニュージーランド 虹の谷の農園から』 ゲスト：臼井健二(安曇野パーマカルチャー塾)



パーマカルチャーにこそ、人間らしい暮らしがある。南半球の楽園ニュージーランド。ここに世界中の人々から注目を集める夫婦がいる。夫のジョーはオーストリア生まれ、ヨーロッパでグラフィックデザインや有機農業の仕事をしてきましたが、1983年に都会生活を捨て、妻トリッシュの故郷ニュージーランドに移住しました。そして20年近く、自然と共生した自給自足の生活を続けています。そこに貫かれたパーマカルチャーの思想。ジョーとトリッシュはパーマカルチャーの実践者として自らの経験をもとに、多くの人に語りかけています。

ナレーション：デジャーデンゆかり 企画・制作：パーマカルチャーネットワーク九州

4月18日(金)『NHK 特集 エンデの遺言 根源からお金を問う「モモ」に隠されたメッセージ』 ゲスト：松村暁生(おぐらやま農場)



ミヒャエル・エンデが日本人への遺言として残した一本のテープ(1994年)をもとに作られたNHKの番組「エンデの遺言 根源からお金を問う」はたいへんな反響を呼びました。日本の地域通貨は、この映像を見た人の中からはじまりました。「ネバー・エンディング・ストーリー」の作者でもあるエンデは、お金によって生まれてきた現代社会の病を語ります。人間が作ったはずのお金なのに、お金の人間が振り回されてしまっている、お金を変えない限り人間の幸せはやってこない、と語ります。

4月19日(土)『未来からの贈り物 この星を旅するものがたり ～人はいま、どこに向かおうとしているのか』 ゲスト：福嶋修道(虹の村診療所)

映画「ガイアシンフォニー」のテレビ版として、1995年3月1日TBS系にて放映。池澤夏樹が物語を書き、「裏ガイアシンフォニー」としてファンのあいだでは有名な作品です。出演：第14世ダライ・ラマ法王(チベット仏教最高指導者)、フリーマン・ダイソン(物理学者)、星野道夫(写真家)、リン・マーグリス(生物学者)、トーマス・レイ(人工生命研究者)



ダライ・ラマ法王からのメッセージ『もっとも重要なことのひとつは、慈悲の心です。慈悲の心は、ニューヨークの大きな店でも買うことはできません。機械でも作り出せません。しかし、心の内なる発展によってはじめて手に入れることができるのです』



星野道夫

フリーマン・ダイソン

4月20日(日)『未来への提言 地球温暖化に挑む ～世界のキーパーソンからのメッセージ』 ゲスト：増田望三郎(安曇野地球宿)



かけがえのない地球の危機に対して私たちにいま何ができるのか、温暖化を食い止めるにはどうしたらいいのか、真摯に考える大型ドキュメンタリー。宇宙から青い地球を見つめた毛利衛さんは、温暖化研究の権威でNASAゴダード宇宙科学研究所所長のジェームズ・ハンセン博士とニューヨークで対談、北極海の氷が最小になるなど温暖化のスピードが加速しているという科学者からの警告を伝える。温暖化が進むと世界経済はどうなるのか、イギリスの経済学者ニコラス・スターン博士へのインタビューでは、博士は「このまま対策をせずCO2が増加していった場合、世界経済が被る損失は“世界大戦並み”になる。いま対策をする方が予測される損害より安くつく」と訴える。さらに、ノーベル平和賞を受賞したゴア前米副大統領、国連IPCCパチャウリ議長、温暖化の危機を訴えるドキュメンタリー映画を制作・出演した俳優レオナルド・ディカプリオなどからのメッセージや、世界各国の最先端の温暖化対策もあわせて紹介する。